

工事事故防止行動計画 ニュースレター

今回は、工事事故防止に向けた島田土木事務所の取組について御紹介します。

島田土木事務所では、工事事故防止行動計画で「予想される事故」をリストアップする際に、ドローンによる空中写真を活用して事故リスクの予見性を高める取組をはじめました。

空中撮影を活用したハザードマップの作成例



空中写真を活用することで、工事進捗等により変化する事故リスクをわかりやすく見える化！気づきが増え、工事事故防止につながると期待されます。

現場での活用状況 ～KYや安全訓練において活用～



図面をベースにしたハザードマップに比べて、現場の状況が分かりやすく、リスクをイメージしやすくなったと好評です。

事故対策リスト・ハザードマップは、現場状況の変化に応じた適切な時期での**見直し**が重要です。リスクの見落としが無いよう、発注者、受注者双方で確認して下さい。

次ページ以降で島田土木事務所が発生した事故の事例を紹介します。

年度末となり、事故が増えています。ちょっとした不注意でも大きな怪我、重大な公衆災害を引き起こす場合があります。いま一度、気を引き締めて工事にあたっていただくをお願いします。

事故事例

令和4年1月26日、作業員がおよそ6mの高さから河川に転落し、負傷する事故が発生しました。

【被害】

- ・作業員負傷（手首、肘、恥骨骨折）
- ・入院およそ3週間

【影響】

- ・工事中断 8日間
- ・工事関係者に重傷者で「減点」



●事故概要

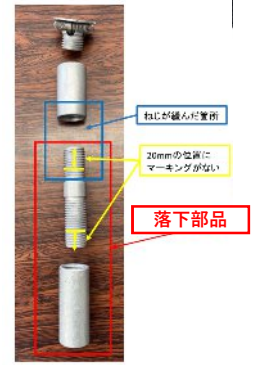
橋梁補修工事において、スラブドレーンを設置作業中に部材の一部が橋梁下の河川へ落下したため、落下物を拾うために、脚立を持って護岸天端を移動していたところ、法面に設置されていた植生土のうで足を滑らせ、約6m下の河川内へ転落し被災した。



次ページに続く

●事故原因

- ① スラブドレーンの部材同士の最低ねじ込み長さは20mm以上とするよう組立マニュアルにより定められているが、事故当時の作業では必要な長さが確保できておらず、仮設置の際の衝撃や振動などで部材同士のねじが緩みが生じ最下部の部材が落下した。
- ② 床版上に削孔した穴からの資材等の落下防止措置が取られていなかった。
- ③ 被災者である作業員が単独で現場を離れた。
- ④ 河川内に下りるためのルートが作業員に周知されていなかった。



スラブドレーン

●再発防止策①

スラブドレーン設置について、組立マニュアルを参考にして本工事独自の作業手順書を作成し、KY活動時に作業員に周知徹底する。

●再発防止策②

床版上の穴から部材が落下しても、河川まで落下しないよう、落下物防止ネットを設置する。

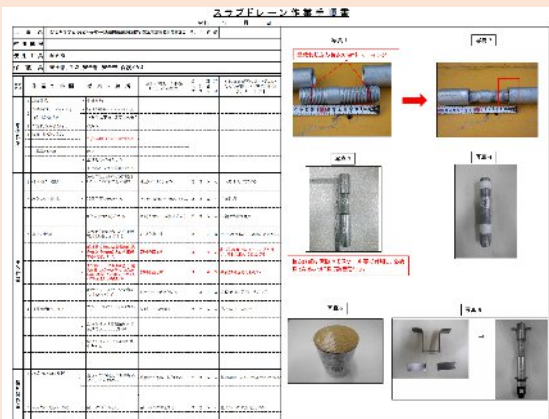
●再発防止策③

作業中の現場を離れる場合は、現場代理人及び周囲の者に声をかける事を約束事とし、毎朝のKY活動時に全作業員で共有する。

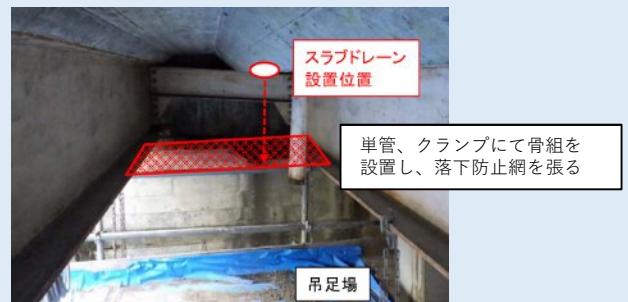
●再発防止策④

河川への落下物が発生した場合に備え、河川への進入ルートを定め、現場の安全掲示板に明示して全作業員に周知する。また、河川への立入り防止対策を行う。

再発防止策① 作業手順書



再発防止策② 落下防止



再発防止策④ 安全なルート設定



再発防止策③ 現場の取り決め

掲示板等に掲示し、日々のKYで周知徹底！

現場を離れる際の決まり事

- 1 現場を離れる際には必ず現場代理人に報告すること！
- 2 報告内容は場所、目的を明確に伝えること！
- 3 報告内容に対する現場代理人の指示には必ず従うこと！

みんなで作ろう安全第一

